

現役ママが作るベビーウェア「アブー」 動物モチーフの食事エプロン人気 物作りを通して子育てに寄り添う

2020年04月15日更新

[保存を解除](#) [ツイート](#) [BI ブックマーク 0](#) [シェア 0](#)


動物モチーフの食事エプロン

「まるでぬいぐるみみたい！」——ベビーウェア「アブー」が、SNSを中心にママに人気だ。企画・販売するのはピクル（東京、井田秀明社長）。全身をすっぽり覆う「動物モチーフのお食事エプロン」が代名詞だ。ママ目線の実用性と大人が好むシックな配色、子供が喜ぶ可愛らしいデザインの三拍子揃ったアイテムで、出産祝いのニーズもある。有力百貨店やライフスタイルショップからも注目されている。（関麻生衣）



「消費者の意見をもとに改善を重ねている」とデザイナーの井田さん

18年に販売を始めた。デザイナーの井田恵さんは、3歳の子を持つママでもある。前職はIT企業の秘書だったが、出産を機に退職。子育てをして「色々な『初めて』にぶつかった。買い物に行くと、『何でこういうものがないの』と思うこともあって、世の中にはないものを作ろうと思った」。アパレルの経験はなかったが、ウェブサイトのデザインや企画、グラフィックの技術があり、「物作りを通じて子育てに寄り添える仕事がしたい」と考えた。

ママ友とのランチで驚き

そうした中、井田さんが注目したのが、食事の際に使うエプロンだった。ママ友とランチに行くと「おしゃれなエプロンを付けながら、それが汚れないようにシリコーンのスタイを重ねて付けている子が多いことに驚いた」という。

アブーの食事エプロンは、食事で汚れた口や手で洋服を汚さないような仕様になっている。首回りから肩にかけてと、太ももの部分を覆い、膝が隠れるロング丈にした。食べこぼしをすくえる立体的なポケットも付いている。着脱をスムーズにする面ファスナーは、子供の肌を傷つけないよう、チクチクしないタイプを採用した。

もう一つの大きな特徴は、動物の全身をかたどったコスチュームのようなデザイン。ベビー雑貨でモノトーンを基調にしたシックな色使いがトレンドになる中、落ちていた配色にしつつも、子供も喜んで着られるものを追求した。市場では大人目線のおしゃれなウェアや雑貨が増えているが、「子供のうちに着られる、可愛いものを自分の子供に着させたいと考えた」という。

黒猫やパンダ、アザラシなど9種類あり、3700円。ワンサイズで生後5ヶ月～3歳まで対応する。ほかに、お尻の部分に動物の顔のモチーフを配したブルマー、韓国のベビーシューズ「アティバス」との協業アイテムなどもある。

キッズも視野に商品拡大

今後はギフトを中心に商品数を増やす。取引先から帽子やリュックなどを求める声もあるという。ブランドが井田さん自身の子供とともに成長しているため、将来的にはキッズやトドラーも視野に入れる。ウェアは着こなしを変え、年齢を通して着られるワンピースやサロペットを考えている。

現在の販路は、今年3月に東京・代官山に開いた直営店のほか、ベビー用品のセレクトショップ「プロッサム39」と「グッドウェイ」、伊勢丹新宿本店や西武池袋本店など全国の有力百貨店。大阪・天王寺公園に19年秋に開業した複合施設「てんしばイーナ」内にある、動物をモチーフにしたグッズショップ「ズークル」でも販売している。

